

令和8年度 第2回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和8年8月20日（木）19時00分～20時30分
- 場 所：土浦市消防本部 3階 講堂
- テーマ：医療・福祉の視点から考える在宅療養者のための災害対策
- 出席者：68名（アンケート回答率：95.6%）

1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	7	10.8
30代	10	15.4
40代	12	18.5
50代	25	38.5
60代	9	13.8
70代以上	1	1.5
無回答	1	1.5
合計	65	100.0

【職 種】 ※その他（臨床工学技士）

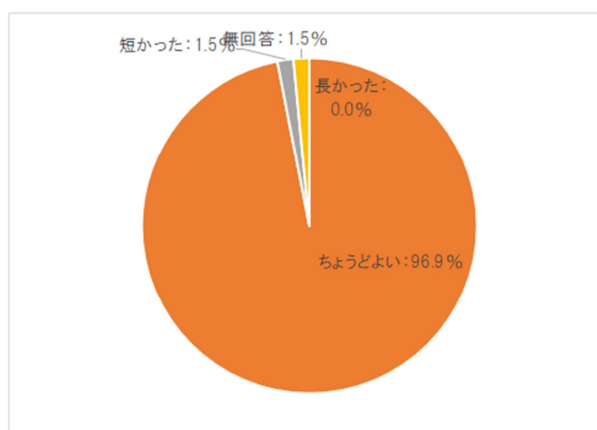
	人数	割合
医師	3	4.6
薬剤師	30	46.2
看護師	7	10.8
理学療法士	1	1.5
作業療法士	1	1.5
社会福祉士	3	4.6
ケアマネジャー	17	26.2
介護職	1	1.5
生活相談員	1	1.5
その他	1	1.5
合計	65	100.0

2. 本日の研修会について

（1）講演についてお伺いいたします

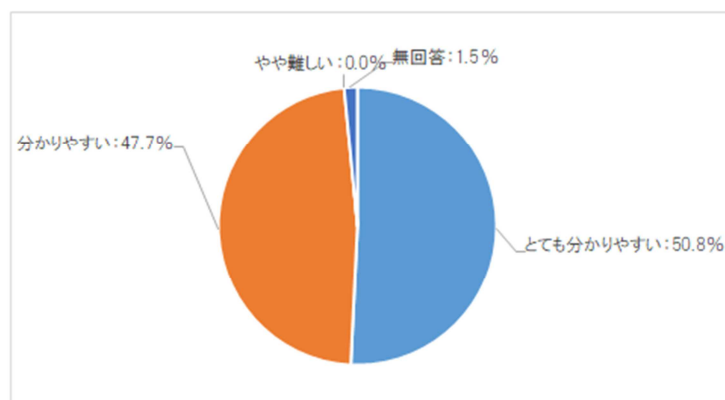
①講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	0	0.0
ちょうどよい	63	96.9
短かった	1	1.5
無回答	1	1.5
合計	65	100.0



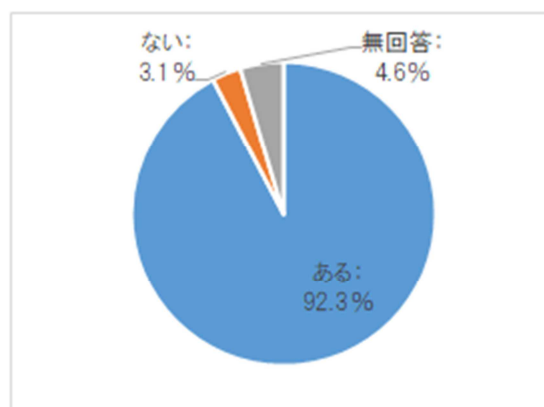
②講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とても分かりやすい	33	50.8
分かりやすい	31	47.7
やや難しい	0	0.0
難しい	0	0.0
無回答	1	1.5
合計	65	100.0



③今後取り組もうと思った内容がありますか。

	人数	割合
ある	60	92.3
ない	2	3.1
無回答	3	4.6
合計	65	100.0



【「ある」と回答した方：具体的な内容】

○介護支援専門員

- ・災害時の BCP の見直し
- ・ハザードマップの作成、確認、活用
- ・利用者と一緒にハザードマップで状況の確認。タイムラインの作成
- ・事務所内で避難所の種類を共有する。感震ブレーカーの設置。
- ・自助と共助から高齢者の方々の生活状況を知ること
- ・災害の備え、利用者と一緒に考えたい
- ・名簿への登録
- ・ローリングストックを日頃から気にしてやっていきたい
- ・共助の充実
- ・共助の事を深く考えてみようと思いました。
- ・訪問時の話題に場所等確認し、注意喚起していきたい
- ・避難行動要支援者支援制度の活用
- ・利用者様と災害時の避難等について話をしてみる

○薬剤師

- ・自助
- ・防災グッズの見直し。タイムラインの作成。
- ・独居の方へ名簿への登録をすすめたいと思いました。
- ・BCP 確認。災害時、薬局としてできる事をスタッフと再確認したい。
- ・災害時の備え
- ・在宅の患者さんへ、災害時の対応について準備できているか確認
- ・災害時、自分でやっておくべきの対応、備えの啓発
- ・災害時の自助と共助に力を入れたい（特に共助）
- ・まずは地震の災害に対する備えをすすめようと思いました。
- ・近隣のハザードマップの確認
- ・災害研修の参考にしようと考えています
- ・在宅訪問している患者様にお知らせしておきたい事を学んだ
- ・自助について必要な高齢者がいらっしたら話をしてみようかと思う
- ・つちうら安心キットの普及。それに近いことを一般の方むけに知ってもらう。
- ・災害マップの確認。独居の高齢者に普段からの備えの大切さを伝える。名簿への登録。声かけ。

- ・垂直避難の実施可否の目安を付けられる。個別受信機の確認。
- ・タイムラインの配布
- ・災害時の在宅患者の対応
- ・患者さんに防災意識を持ってもらう
- ・自分の住んでいる所や仕事場がどれだけ液状化しやすいかの確認
- ・防災に対する意識を高める

○看護師

- ・災害時の行動を考えていきたい。
- ・利用者のマイタイムラインの声掛け、確認
- ・本日の内容を地域住民に伝える活動をふれあいいいききサロンで行いたい

○医師

- ・災害に関しては最も重要な点であり、大変参考になりました。改めて平時において高齢者や障害者、要支援者に対して積極的に取り組んでいかなければならないと感じた。
- ・非常袋の用意を声かけしていく
- ・要介護2の方でサービスを受けている独居の方を把握したい

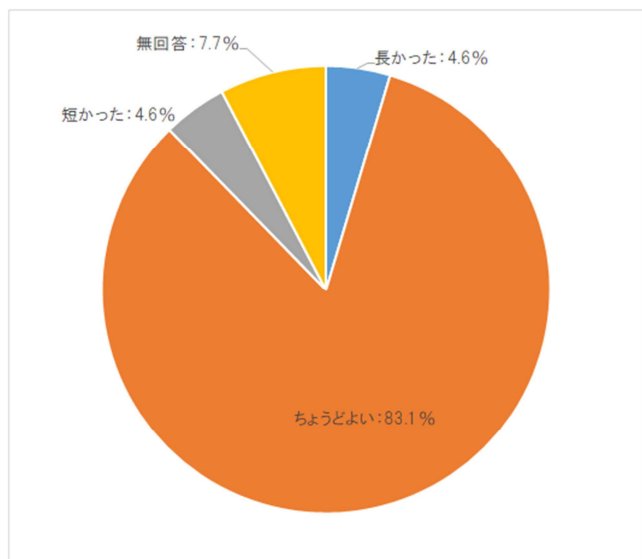
○その他

- ・我が家のタイムラインの活用。日常の備え。利用者へも普及のかかわりをしていく。
- ・ローリングストックはすぐに始められそう。また、防災の啓蒙をしていこうと思った。
- ・できる事の備えはきちんとしておこうと思った
- ・BCPの見直し、利用状況の再確認（環境含め）
- ・独居の利用者への声掛け、備え
- ・ハザードマップの把握と避難所の確認を利用者（高齢者）と確認
- ・支援制度について啓発していきたい
- ・わが家のタイムラインや避難行動要支援者支援制度について利用者に伝えてみようと思いました

（２）意見交換会について、伺います。

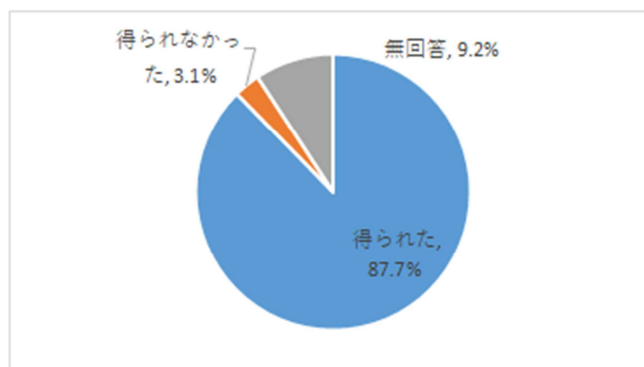
①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	3	4.6
ちょうどよい	54	83.1
短かった	3	4.6
無回答	5	7.7
合計	65	100.0



②今後の業務に活かせる成果が得られたか。

	人数	割合
得られた	57	87.7
得られなかった	2	3.1
無回答	6	9.2
合計	65	100.0



【「得られた」と回答した方：具体的な内容】

○介護支援専門員

- ・色々と違う考えが知れてよかった。
- ・利用者と再度、防災対策に取り組みたいです。
- ・正常性バイアスの恐ろしさを知りました
- ・避難情報の意味が分かった
- ・わがやのタイムラインを活用したい
- ・薬、お薬手帳も持って避難する
- ・色々な意見が聞けて災害に関心を持った
- ・やっている事の振り返りができた
- ・自分の考えだけでなく多面的になれた
- ・メンタルケアの必要性
- ・自分にない意見を聞けてよかったです

○薬剤師

- ・多職種の方の考え方などを知れてよかった
- ・様々な職種からの意見
- ・ケアマネが災害時のためのプランもしていることを知った
- ・土浦市の防災体制について知れたこと
- ・他業種の視点を感じることができて視点が広がった
- ・様々な職種の意見を聞けてよかった
- ・多職種ならではの意見交換ができました
- ・在宅患者様のみならず外来患者様へも伝えられる情報を得ることができました。
- ・職種ごとに考える方法が違うのだと思い面白かったです
- ・他の職種の視点が少しわかった
- ・防災への備えの大切さ
- ・看護師、ケアマネの考えを知ることができた
- ・ハザードマップの気づき（距離、場所）
- ・自分では見えていないことが見えてきた
- ・多職種の考えを得られた

○看護師

- ・多職種の方々と意見交換できてよかった。
- ・ハザードマップをじっくり見て考えたことがなかったので自部署に戻って確認する必要性を感じた
- ・様々な視点で物事を考える

○医師

- ・各職種の方々がそれぞれの意見を出し合い、気づきの点がいくつも見られた。
- ・多職種の方と話せた
- ・ハザードマップで自分が危険なところにいるのをあらためて自覚した

○その他

- ・利用者に対してできそうなことがたくさんありました。
- ・先を想定し続けることの必要性
- ・色々な意見が聞けた
- ・利用者との会話の中に防災を話題にする。名簿の存在。
- ・様々な職種の考えを聞くことができた
- ・普段聞けない薬剤師さんの話が聞けた

3. 在宅療養の支援について伺います。

①円滑な在宅療養支援のため、日頃実践していることや、課題に感じていることを教えてください。

【実践していること】

○介護支援専門員

- ・医療連携
- ・親族（身元保証団体など）、キーパーソンとの連携
- ・自己決定できる環境づくり
- ・他職種間の情報共有
- ・家族（介護者）と本人の意向のすり合わせ
- ・災害のBCP ファイルを作成してる。利用者の事がわかる。
- ・多職種連携を心掛けています

○薬剤師

- ・こまめな情報共有、相談
- ・伝達事項で重要な事は電話している
- ・様々な服薬支援を活用
- ・患者とのコミュニケーション、必要に応じてケアマネ等との情報共有
- ・ケアマネさん、訪看さん、ヘルパーさんとの連携をするよう心がけております。
- ・時間がかかるのにお金にならない事。市から補助が出るとやりやすいか。
- ・なるべく会話する
- ・多職種との連携。利用者の話を聞く。
- ・キーパーソンの把握

- ・他職種連携の弱さ
- ・ケアマネと密に連絡
- ・良好な関係の構築

○看護師

- ・災害時のイメージ
- ・地域の災害対策、多職種連携が課題
- ・備蓄用品をおいてもらえるよう説明。防災情報源の確保。

○医師

・認知症の進行により介護者の精神的疲労が多くみられる。介護者への支援を含めて認知症患者への対応、サービス方法を考えていきたい。このためにもケアマネジャーとの連携、家族を含めての話し合いが大切だと感じている。

- ・薬は一週間分余分が出るように処方する
- ・ケアマネ、訪問看護師、家族と連絡をとりあっています。災害時の連絡はかなり不安です。

○その他

- ・なるべく関係者がこまめに連絡をしていく。
- ・医療だけでなく取り巻く生活環境すべてに気を配る
- ・連携手帳が、医療・介護・福祉で共通利用されるとよいと考えている。
- ・独居の高齢者が安全に過ごせるよう配慮する
- ・地域の人とのかかわり

【課題に感じていること・解決に必要なこと】

- ・連携がスムーズにいかないこともある。
- ・たくさんの人に知ってもらえるか
- ・自治会との連携 → 地区長、民生委員と会う
- ・本当の気持ちを知ること → コミュニケーション
- ・利用者の意識に差がある → 情報共有、市の取り組み等
- ・電話してもすぐに連絡がとれないこと → メールの共有
- ・インフォーマルの活用 → 情報収集（地域）
- ・多職種の積極的交流 → 意見交換の積極的な参加
- ・ひとり暮らしの災害時の対応が難しい
→ 災害はいつでも起こることで、日頃から情報収集をしておく
- ・なかなか情報交換の機会がない → 今日のつちう Labo は良かった。
- ・地域住民のつながりが弱く共助が難しいこと → 自治会で災害の取り組みを
- ・ケアマネ、訪看との距離感 → つちう Labo で顔の見える関係づくり
- ・避難に結びつかない → ケアマネや民生委員と連携
- ・他職種連携 → コミュニケーション頻度アップ
- ・コミュニケーション → 相手の立場になる

②多職種連携をすすめるために必要だと思う取り組みについて

○介護支援専門員

- ・グループワーク
- ・看取り
- ・研修を通じて意識を高める、連携を強化できる。
- ・情報共有
- ・色々な職種の視点で情報を共有したい
- ・顔の見える関係づくり
- ・ケアマネなので担当者会議を開いて顔を見ながら連携していく
- ・自己紹介で何か 1 つ付け加えてのお話

○薬剤師

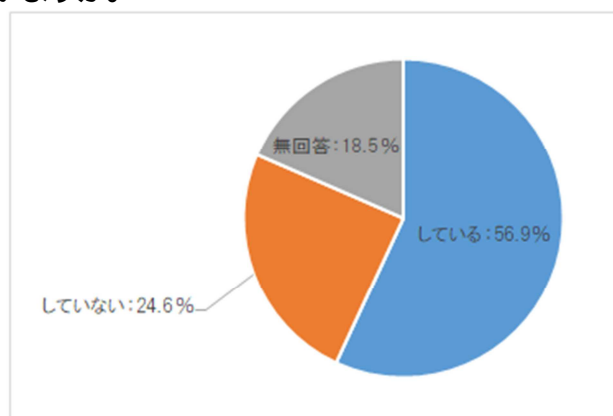
- ・顔が見える関係性
- ・定期的な情報共有
- ・顔を広げること
- ・このような機会を持つ
- ・顔の見える関係づくり
- ・他職種を理解する
- ・職種の仕事内容をよく知っておくこと
- ・連絡ツール
- ・つちう Labo のような会議体

○その他

- ・本日のような多職種の方々との意見交換は大事だと感じた。
- ・災害を想定したシュミレーション訓練
- ・定期的な講演の実施
- ・各職種、団体の活動等を知ること
- ・今回のようなグループワーク
- ・地域ごとに連携する、できる多職種が集まる。
- ・顔の見える繋がり作り
- ・訪看、介護と行政の連携をもっと具体的にする必要あり。それぞれが取り組みを計画している（BCP などで）が・・・。
- ・交流や意見交換
- ・このような研修に参加していくこと
- ・集まりの場を持つ
- ・在宅ケア事例会などに積極的に参加する

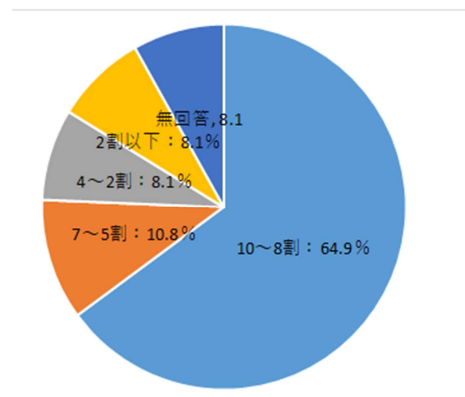
③利用者が入院した時に、医療機関に情報提供していますか。

	人数	割合
している	37	56.9
していない	16	24.6
無回答	12	18.5
合計	65	100.0



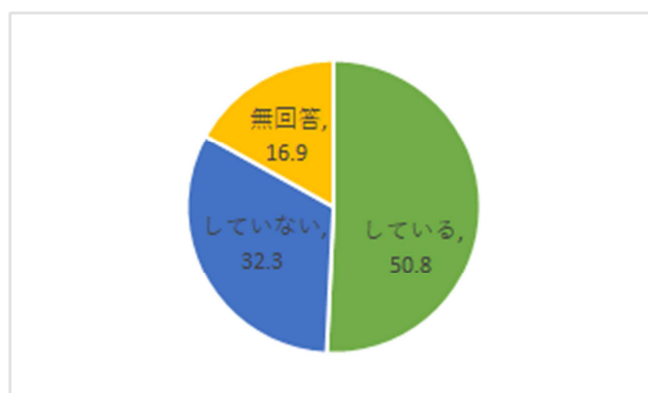
→約何割のケースにおいて提供していますか。

	人数	割合
10～8割	24	64.9
7～5割	4	10.8
4～2割	3	8.1
2割以下	3	8.1
無回答	3	8.1
合計	37	100.0



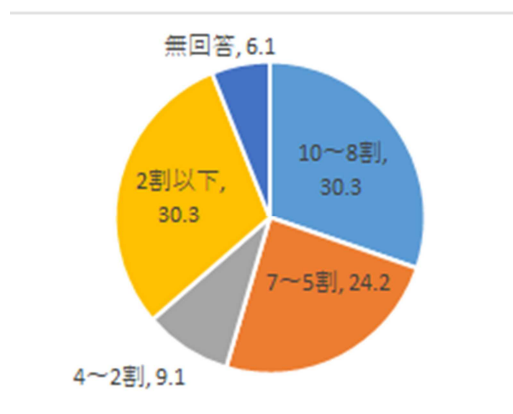
④退院前カンファレンスに参加していますか。

	人数	割合
している	33	50.8
していない	21	32.3
無回答	11	16.9
合計	65	100.0



→約何割のケースにおいて参加していますか。

	人数	割合
10～8割	10	30.3
7～5割	8	24.2
4～2割	3	9.1
2割以下	10	30.3
無回答	2	6.1
合計	33	100.0



⑤在宅療養者について、災害時どのようなことが課題になると思いますか。

○介護支援専門員

- ・移動困難者の支援
- ・帰宅時の環境整備
- ・絶対外せない薬。連絡つく親族。水。連絡つく携帯もしくは近所の方。
- ・避難所までの移動
- ・在宅酸素が必要な方の避難で酸素ボンベをどうするか
- ・停電が困る
- ・自宅にいられなくなって困るとかサービスが滞る。
- ・ひとり暮らし、認知症の方、家族遠方の方の支援が大切
- ・隣近所とおつきあいの度合い

○薬剤師

- ・避難する時の対応
- ・ひとりではできる事が限られている
- ・連絡がついて対応ができるか
- ・各個人の状況の確認
- ・避難所までの道のり
- ・薬の服用を継続できるか
- ・フォローするには在宅では難しい

○看護師

- ・避難の方法（道路が使えなかったらどうするか）。急変時の対応。経管栄養など特別な食事ではか栄養を摂れない方は支給があるのかなど。
- ・移動手段
- ・支援不足、不十分、遅れ、取り逃し

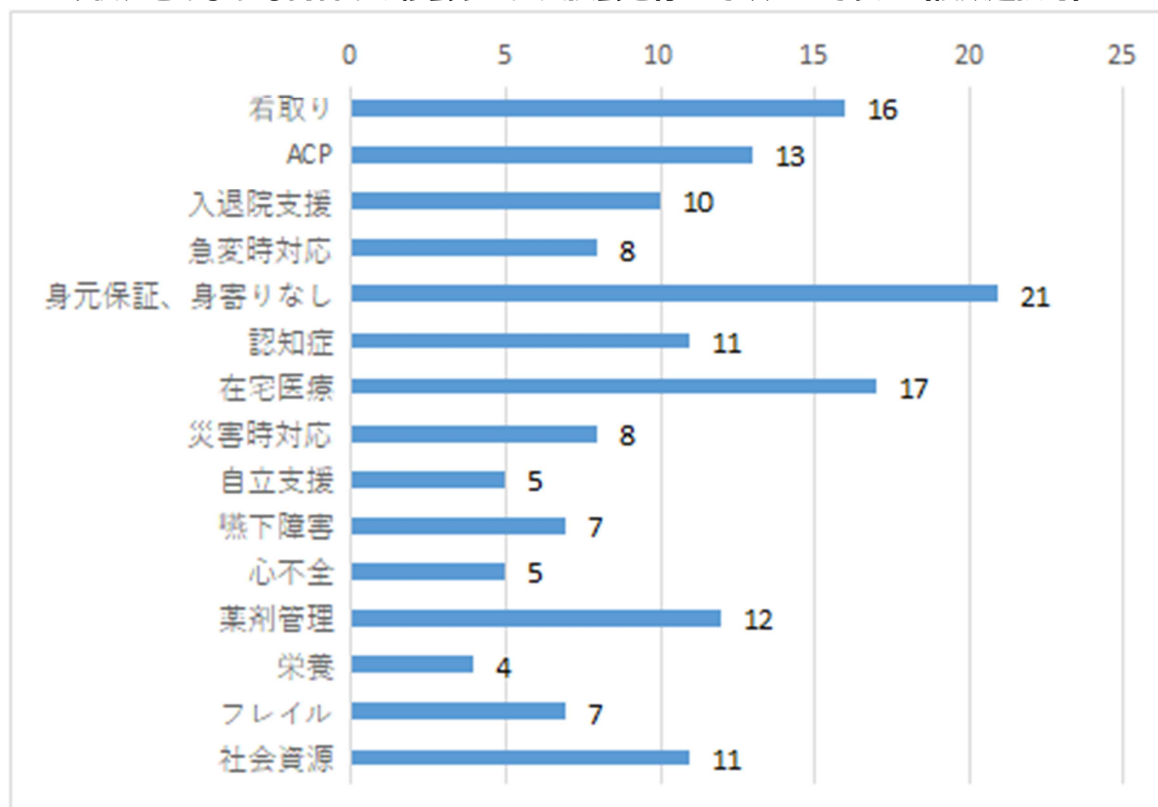
○医師

- ・連絡をどうやって取るか
- ・安全確認が一番重要な課題です

○その他

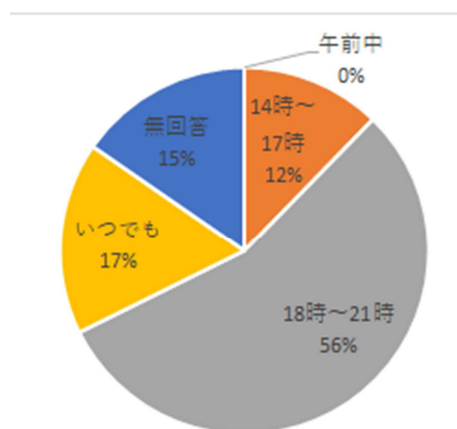
- ・身寄りのない人、家族間の確執がある人など共助が弱い人
- ・安否確認、情報共有
- ・移動手段
- ・本人の防災意識を持ってもらえるかどうか
- ・どのように安全確保を図るか

4. 今後、どのような内容の研修会や意見交換会を行ってみたいですか（複数選択可）



5. 研修会の実施を希望する時間について

	人数	割合
午前中	0	0.0
14時～17時	8	12.3
18時～21時	36	55.4
いつでも	11	16.9
無回答	10	15.4
合計	65	100.0



6. 最後に、お気づきの点や、ご感想などがありましたら、ご記載ください。

○質問

・福祉避難所には常駐して医療スタッフはいるのか。急変等あった時の医療機器等置いてありますか？リエゾンなどで病院搬送等を行っていくのでしょうか？避難所で命を守れるのか心配です。
 →常駐している医療スタッフはいません。開設が必要と判断されたときは、市の職員によって編成された福祉班や国・県から派遣された医療・福祉の災害派遣チームによって福祉避難所を開設・運営します。また、医療機関ではなく、あくまで避難所という扱いになるので、専門的な機器の備蓄はございません。生命の維持に特殊な機器を必要とする場合には、病院搬送などが第一選択となります。

・避難所が設置された場合、誰が対応するのか。要配慮者という事は人員が必要だと思うのですが。
→開設が必要と判断されたときは、市の職員によって編成された福祉班や国・県から派遣された医療・福祉の災害派遣チームによって福祉避難所を開設・運営します。また、災害の規模に応じてボランティアを募るなど、柔軟に対応してまいります。

・戸別受信機の貸し出しの内容が知りたいです。
→市では要望があった世帯に戸別受信機の貸し出しを行っております。設置に掛かる費用は市で負担いたしますが、ご自宅の壁に穴開け工事が必要な場合や、ご自宅の位置によっては電波の受信ができない場合がございますので、予めご了承ください。

○感想

- ・ありがとうございました
- ・分かりやすかった
- ・大変勉強になりました。BCPの参考に大変なりました。ありがとうございました。
- ・災害対策について自分自身も勉強になりました。
- ・災害を考えるよい機会になりました
- ・ハザードマップをファイルに綴じ込む、掲示するのみで対策について議論することがなかった。よい機会をありがとうございました。
- ・ありがとうございました
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。明日から患者さんに声掛けします。
- ・とても役に立ちました。名簿掲載対象者を増やしていきたい。